

染色随想

瀧本梅二郎

京都市染色試験場長

戦前に於いて日本の繊維工業は製糸の面に於いて、綿糸紡績綿布の生産に或は人絹ス・ソの生産に於いて世界の首位を占めていた。又羊毛織に絹工業に於いても、繊維工業のあらゆる分野に大々特色のある發達を遂げて、世界第一の繊維工業國として自他共に存していたのであつた。一面繊維機器に於いても農田織機の如く紡機に自動織機にその優秀さは世界に誇るものがあり、繊維工業先進國へ意欲に輸出されていた。染色機械に於いても中國印度は市寸に及ばず南方其他の方面にも大量に輸出され、機械の据付や實作業の指導に出張した技術者も少くはなかつた。

然るに事變の進展に伴い戦時統制諸法令は應接に追なき程相次いで公布實施され、數次に亘る企業整備により繊維工業界は企業の轉廢を餘儀なくせられ、その大部分が壊滅したことは誠に痛惜に堪えない處であるが、終戦後全國民が平和産業の再建振興こそ民族生存の方途であるとの結論に達し、繊維工業の復元が高唱されて嘗々その成果を挙げつつあることはわれわれ新業にたづさわる者として欣ばしい次第である。現在我邦は連合軍の占領下に於いて、國民經濟の中樞をなす最重點産業と認められ重要な援助を與えられた、即ち見返り物資として繊維製品の輸出を許可せられ、21年6月から之が原料として米綿の輸入を見、追つて加工綿布として輸出することが計畫されたので、染色界も括況を呈するに至つた。

今日多くの國民は日本の繊維工業が容易く戦前の地位を再現し得るものと考え向きもあり、又業者中にも比較的甘く見ている者も少くない様であるが、戦前に於けるが如く日本の繊維工業品が中級品或は下級品の安物の大量生産で低賃金を基礎としてなされた経営が成立つかどうか、かつて我國産品の市場であり消費地であつた中國印度南米、佛印方面は自給自足を計畫しており、既に之等の國々よりは織機、染色整理機の引合があり大量の注文があつた傍に聞いている、而かも國內に於ける労働攻勢は従來の低コスト生産を夢想することの出来ない状態に追込まれている。低賃金が望めない高級品の製造により技術を買るといふより生きる道はない、後進國の追躰をしりぞけて優秀品の低コスト生産に邁進する新分野を開拓しなければならぬ。然るに業界の現状はどうか、綿花が配給される様になつて残存織布業者は擴張

に擴張を重ね、轉廢業者は復元を企て新規業者も織機に注目して先ず織機を増設して配給を獲得せんと企て、先ず織機を載せる御盆を備へることのみでは、優秀高性能の高級機の選擇を考慮に入れていない様に見受けられる、又高級品生産に必要な捻糸機其他の準備機をおろそかにしているのではあるまいか。染色業者は染釜の大増設を企て、布染業者は速早くジツガー、乾燥機、六色乃至八色の捺染機を注文整理機の一部も設置して一應戦前の状態に復したかのように見受けられる地方も少くないが、輸出繊維工業の大發展を期待する時今少し慎重を期し、よきメーカーの優秀にして高性能の設備を選擇すべきではなからうか。戦後群立するいかかわしいブローカー的機械屋にだまされぬよう注意して欲しい。諸種の事情から判断して日本繊維工業の大發展を期待する時染色加工部門は最終工程としてその技術の優劣は直接間接に製品の商品價値を左右する最も重要な工程である。勿論生地肌はよくなければならぬ、よい生地に層層をつかい口紅をつけて御化粧してこそ、みんなに好かれる、染色加工は洋行の御化粧である美粧院の先生大いに技術に精進して下さい。私は次の様なことを考へているのですが駄目でしょうか

1 両面滲透捺染

最近アメリカ製のプリント絹ネクタイを見た、相當厚地の綾でしたが全く裏表のない迄よく滲透していて、恰も多面捺染を施したように見えるが、どうも片面に加工して裏まで滲透したものと思われ……人絹物は内地友禪と大差はなかつた……糊料によるか滲透劑か、多分糊料によると思われるが現在内地糊料としてはコンニャク糊以外にこんなにも滲透する糊料はないコンニャク糊では直接染料と配合すると凝固してしまい滲透劑を多量に入れると形際が泣き出してしまふ。なにかこんな糊はないかと懸命にさがしているが未だ見當らない、事變前ある友禪工場で夏物着尺に難かしい操作によつて両面に形紙友禪によつて形置きをして裏表のない加工を施していたが、片面捺染に比較するとどうしても加工費が3倍かかるとのことであつた。我國の友禪染の持味はアメリカ人の嗜好に適するようであるが裏の白いのが欠點で好かれない、この點の解決がつけば輸出振興に大いに役立つと思う。注染法によれば解決するが色数と柄とに於いて制限がある。こんな形染が糊料なしで形紙を取れば裏まで透るといふ處まで行きたいものだ。

2 染色堅牢度の向上

染上げたものが、破れても生地がなくなるまで色が變らぬことが染屋の理想である、綿布の染色にはインダンスレン、ナフトール染料など比較的理想的に近い染料があるが、絹に對する染料として

は直接、酸処理は染色性染料の如く普通日光、洗濯や汗に弱く特に国内で主として生産されているものは此種染料が大部分を占めている、此等を染色前後の簡単な加工によつて堅牢にする理想的な前処理又は後処理剤の出現を希望する次第である

3 高周波乾燥

最近タイヤーコードの熱り止めに強度及び伸長の度をなくするために高周波加熱を應用して優秀な成績をあげている紡績会社があり、又木材の乾燥や合成樹脂の加工に特殊の効果を賦與して現に工業化している会社があると聞及んでいる。私は染色工場が常に染色物の乾燥に多大の燃料費を支出して苦勞しているのをこのラジオヒーターを應用してこれによつて、晒したものと染めたもの補付したものからすべての仕上につかうことができたなら工場支出の大部分を占める燃料費が助かると思ふ最も効果的な利用方法はなきものか、高周波加熱の繊維工業に應用する試験は大學や各研究機関で盛んに研究されているが染色工場の單なる布の乾燥に安價にして最も効率のよい應用法を発見したいと思ふ。

4 無収縮仕上加工

昭和10年前後に於いて染色物を仕上した後に於いて巾や長さの方向に収縮しないことを目的とした仕上機械としてサンフオライジングマシンが業界にやかましくいわれた時があつた、現在機械はたつた1台だけ商工省の横浜繊維工業試験所に設

置されているが、今購入するとすれば數千万圓かかるだろう。然し高級綿織物ブロードクロスやポプリン高級人絹織物の仕上加工には是非無収縮仕上を施し一寸した洗濯では縮まぬ仕上が必要である。私は染色機械メーカーに御願ひしたい、現在の機械を簡単な改造によつて高價にして複雑使用法の難かしいサンフオライジングマシンの代用に供し得るような構想を案出して欲しい。又化學製品によるか、或は電氣的に超短波を利用してこんな仕上はできないものか今後に残された重大なる研究問題である。

5 永久に汚れない仕上

最近京都染色研究会に研究課題として提案された問題として漂白又は染色後仕上げた布が、永久に絶対に汚れない加工という問題である。石鹼や洗剤の乏しい時代にこんな仕上ができたらと一般消費者も業者も痴者の夢として夢り去るにはあまりに大きな現實の問題である、陰電氣活性物質をつけたらと論議されていたが。

以上夢のようなことを書いて紙面を汚したことを御詫びする次第である。染色加工部門は従來日本學術振興會や化學技術協會等の學界から除外されていたが、最近繊維工業の重大性に鑑み各方面から多大の關心を持たれるようになったことは斯業にたづさわるものとして喜ばしい次第である。うとんぜられていた染色加工部門の技術者も學界の権威と相提携して山積する未解決の重要事項を解決して、安かろう悪かろうの悪評を解消して繊維日本の聲價を世界に高揚せられんことを望む。

<p>説・創・刊</p> <p>繊維、繊維製品</p> <p>蝶理合名會社</p> <p>本社 京都市下京區大宮五社 電話四陣代七七八〇番</p> <p>支店 大阪・京都府・神戸・名古屋・廣瀬・東京・相生・金澤・福井</p>	<p>説・創・刊</p> <p>西陣織物工業協同組合</p> <p>理事長 高木吉之助</p> <p>京都市上京區今出川通大宮東入 電話四陣三三〇一三三番</p>	<p>説・創・刊</p> <p>京都府被服工業協同組合</p> <p>理事長 上田庄太郎</p> <p>京都市下京區御町通五條上ル 電話(下)二一四六・三四七三番</p>
---	--	--